

OTの視点より

小・中・高・卒業後へつなげる作業の学習について

自立活動教諭 (OT) 村上 真帆

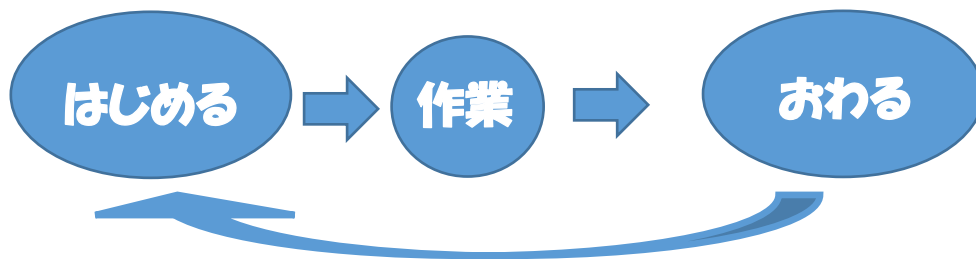
ある特例子会社の社長さんのお話です。「学校では意欲をつけてきてください。その他の仕事のスキルやルール、マナーは社会人になってからでも身につけることができますから。」とのことでした。

“意欲を育てる”とはどのように、どうやってできるのでしょうか？そして、学校生活を通じて何を積み重ねつないでいったら良いのでしょうか？

私は、意欲は主体性を持って行ったことに対して本人が「できた！」「わかった！」という経験を通じてはぐくまれ、「もう一度やってみよう！」「次はあれにトライしてみよう！」という次への力であると考えます。

学校生活を通して作業の学習は様々です。通年で行うものもあれば、単元によって数回で変わっていくものもあります。特定のスキルそのものを身につけることが学習の目的ではないこともあります。その中で何を在学中に積み重ねるのかと考えると、私は挑戦した作業が「できた！」「わかった！」といった成功からの意欲を育てることではないかと思っています。

様々な作業を成功し、自立して行うには次のようなことが大切です。作業はどんなものも、「はじまり→作業→おわり」の繰り返しです。(授業の中の作業は挨拶や準備、片付けといったことが含まれます。この積み重ねも大事ですが、ここでは道具を使ったり作成をしたりする部分の作業を考えます。)モチベーションを持って、やることが分かって作業が始まり、完成できたことが分かって作業は終わります。作業の難易度は工程が増えたり、使用する道具や素材が複雑になることで変わります。「はじまり→作業→おわり」の流れは単純で当たり前のようですがこの流れで作業を行えていることが、自立した作業であるといえると思います。ですので、実態に合わせた「はじまり→作業→おわり」につながる作業の設定が大事であると考えています。



児童・生徒の実態は大まかに

- I 一工程行える (a 単一の操作 b 複数の操作)
- II 複数の工程を行える (a 手順表を利用 b 手順を記憶)
- III 終わりをイメージし、工程や道具を選択して行える

に分けられるかと考えます。

この段階に合わせて、やることが分わかって始められる工夫、終わりが分かるための工夫、報告の工夫、出来高表の工夫をすることで、実態に合わせて作業の自立に向けた取組みを考えられるのではないかと思います。この工夫をまとめると表1のようになると考えています。

表1. 作業の段階と工夫

	やることが分かる	道具・操作の工夫	終わりが分かる	伝える	出来高
I 一工程行える	<input type="checkbox"/> 見て分かる工程(図1) <input type="checkbox"/> 単一の操作 <input type="checkbox"/> いくつかの操作	作業に合わせて 自立してできる工夫	<input type="checkbox"/> 材料がなくなる <input type="checkbox"/> 「できました」の表示 <input type="checkbox"/> 工程表が終わる <input type="checkbox"/> 手本と同じ <input type="checkbox"/> タイムタイマー	<input type="checkbox"/> 出来上がりを見せる <input type="checkbox"/> 身振り <input type="checkbox"/> スイッチ <input type="checkbox"/> カード <input type="checkbox"/> 音声・言葉 <input type="checkbox"/> 状況を言葉で伝える	<input type="checkbox"/> 材料がなくなる <input type="checkbox"/> 印をはずす <input type="checkbox"/> できたら入れる <input type="checkbox"/> できたら貼る <input type="checkbox"/> シールを貼る <input type="checkbox"/> ○or 正を書く
II-a 複数の工程を行える	<input type="checkbox"/> 見て分かる配置(図2) <input type="checkbox"/> めくり式の手順表 <input type="checkbox"/> 一覧の手順表				
II-b 手順を記憶して複数の工程を行える	<input type="checkbox"/> やってみせる・映像 <input type="checkbox"/> 文字、写真等での説明 <input type="checkbox"/> 口頭での説明				
III 終わりをイメージし、工程や道具を選択して行える	<input type="checkbox"/> 選ぶ・探す・集める <input type="checkbox"/> 片付ける <input type="checkbox"/> 情報を集める <input type="checkbox"/> 問題に対処 <input type="checkbox"/> ペース・注意集中				

図1

I 一工程を行うことができる

→作業の内容がひと目で分かる場面設定の工夫

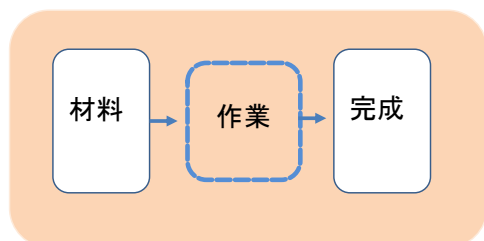


図2

II-a 手順表を使用して複数の手順を行える

→ひと目で分かる場面設定と手順表

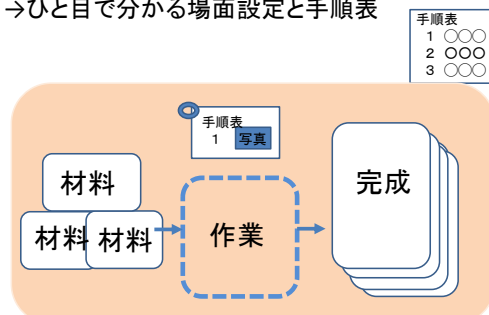


表1のIやIIの段階では、やることが分かるには見て分かるということが大事です。材料の位置、完成したものを置く位置をはっきりさせることで、始めることが分かりやすくなります。同時に材料がなくなることで作業が終わったことを明確にすることもできます(図1、図2)。実態に合わせた工夫が作業の種類が異なっても行われることで、何をやるのかが分かりやすくなり、取組みを成功させ、学んだことをまた次へとつなげることができるのではと考えます。また、材料や道具の位置が決まっていることにより効率的に操作ができます。左から右へと一定方向へ作業が流れるように設定されていると、様々な実態の児童生徒であっても、みんなで流れ作業をすることにもつなげられるのではないかと思います。

この作業の形の共通化は「授業内の作業の工程」をつなぐ、「作業学習、実習、職業といった授業」をつなぐ、「小・中・高と学年学部」をつなぐということが可能になると考えています。

次に簡単に個別課題・国数と作業学習の関係について触れてみたいと思います。

個別の学習の要素は大きく分けて

- ①認知の学習（言葉・コミュニケーションを含む）
- ②操作の学習
- ③自立した学びの形の学習

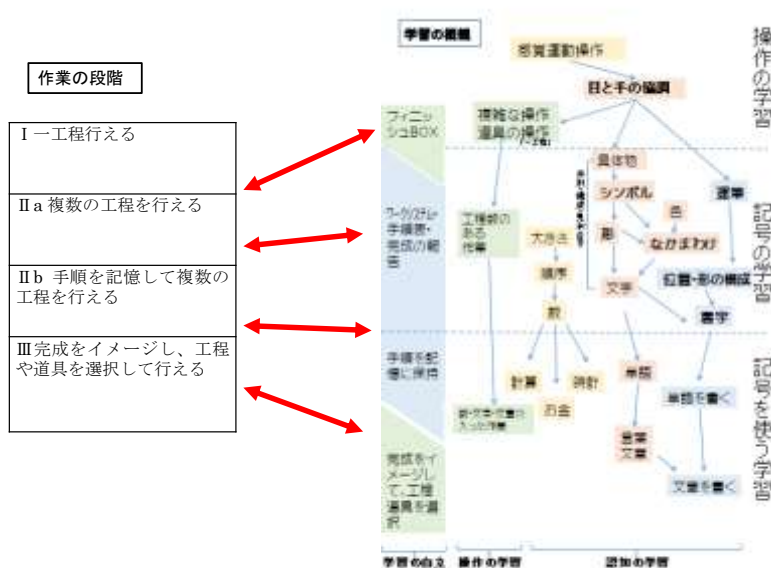
と考えます。

（参考文献1，2）

「①認知の学習」は実物进行操作する学習→シンボルマーク、文字、数字といった記号の学習→記号を使う学習（読み、書き、計算）へと進みます。「②操作の学習」は目と手の協調→より複雑なものや道具の扱い→工程数のある操作とつながっていきます。「③自立した学びの形」は、フィニッシュボックスの利用→ワークシステムの棚の導入→手順表の利用→頭の中に手順を保持するといった段階が考えられます（表2）。これを図3のように作業の段階と合わせて比較すると作業の学習と個別課題・国数とが双方に関係していることが見えてきます。

よって、小学部段階から①,②の学習を進めながら、実態に合った③を導入していくことが、作業学習、実習といった作業的な学習につながると考えられます。また、中・高等部段階において、作業学習・実習といった場面ではより作業の設定を実態に合わせて整理されることで、個別課題・国数と作業学習との関連がより明確になり、教科間、学年、学部間で“つながり”のある学習が実現できるのではないかと思います。

図3 作業の学習と個別課題・国数との関係



作業は様々な形があり、すべてがうまくこの形におさまるわけではありませんが、その都度、児童・生徒の「できた！」に向けて一緒に考えられたらと思います。

参考文献

1. 進一鷹：知的障がい・自閉症・学習障がいの子どもへの学習支援<ことば・文字・数>の学習と支援の実際 2011年 明治図書出版
2. 立松英子：発達支援と教材教具Ⅲー子どもに学ぶ、学習上の困難への合理的配慮ー 2016年 ジアース教育新社

表2 学習の概観

操作の学習

記号の学習

記号を使う学習

感覚運動操作

目と手の協調

複雑な操作
道具の操作

フィニッシュ
シュボックス

ワークシステム・
手順表・
完成の報告

工程数の
ある
作業

大きさ

順序

数

具体物

シンボル

形

色

文字

位置・形の構成

書字

単語を書く

単語

言葉
文章

文章を書く

マッチング・弁別・構成・見本合わせ

なかまわけ

計算

時計

お金

数・文字・文章の
入った作業

手順を記憶に保持

完成をイメージして、
工程
道具を選択

学習の自立

操作の学習

認知の学習

(参考)

作業の段階と工夫



	分かる作業	道具・操作	終わりが分かる	伝える	出来高
I 一工程行える	<input type="checkbox"/> 見て分かる工程 <input type="checkbox"/> 単一の操作 <input type="checkbox"/> いくつかの操作	作業に合わせて 自立してできる工夫	<input type="checkbox"/> 材料がなくなる <input type="checkbox"/> 「できました」の表示 <input type="checkbox"/> 工程表が終わる <input type="checkbox"/> 手本と同じ <input type="checkbox"/> タイムタイマー	<input type="checkbox"/> 出来上がりを見せる <input type="checkbox"/> 身振り <input type="checkbox"/> スイッチ <input type="checkbox"/> カード <input type="checkbox"/> 音声・言葉 <input type="checkbox"/> 状況を言葉で伝える	<input type="checkbox"/> 材料がなくなる <input type="checkbox"/> 印をはずす <input type="checkbox"/> できたら入れる <input type="checkbox"/> できたら貼る <input type="checkbox"/> シール貼る <input type="checkbox"/> ○or 正を書く
II-a 複数の工程を行える	<input type="checkbox"/> 見て分かる配置 <input type="checkbox"/> めくり式の手順表 <input type="checkbox"/> 一覧の手順表				
II-b 手順を記憶して複数の工程を行える	<input type="checkbox"/> やってみせる・映像 <input type="checkbox"/> 文字、写真等での説明 <input type="checkbox"/> 口頭での説明				
III 終わりをイメージし、工程や道具を選択して行える	<input type="checkbox"/> 選ぶ・探す・集める <input type="checkbox"/> 片付ける <input type="checkbox"/> 情報を集め <input type="checkbox"/> 問題に対処 <input type="checkbox"/> ペース・注意集中				

《工夫のアイデア》 作業名： _____